

会期中の併催イベント

会長講演・表彰式

日時：3月26日(土) 13時10分～15時10分
会場：S3会場(恵道館2階201)

プログラム

13:10- 会長講演

「Chemistry-based Innovation—the Key to Japan's Revitalization—」
平成26、27年度会長 榊原 定征

14:10- 表彰式

スプリングコンサート2016

日時：3月26日(土) 16時～17時
会場：S3会場(恵道館2階201)

化学オーケストラ：

日本化学会会員を中心に広く化学関係者によって2002年に結成された音楽団体です。例年、日本化学会春季年会の「スプリングコンサート」で演奏を披露するほか、秋の「千代田区オーケストラフェスティバル」への参加も続けています(2016年は10月22日(土)、大手町・日経ホールにて開催)。

昨年12月の環太平洋国際化学会議(ホノルル)での演奏に引き続き、今回の「スプリングコンサート」でも、「とにかく明るい」化学オケの音楽をお楽しみいただけます。

プログラム

指揮：宮野谷義徳(オーケストラトウキョウ音楽監督)

曲目：グリーク/ホルベルグ組曲から「前奏曲」、モーツァルト/ディベルティメントK.136(全3楽章)、シュランメル/行進曲「ウィーンはいつもウィーン」、J.シュトラウスII/ワルツ「ウィーン気質」、J.シュトラウスII/ポルカ「浮気心」、ワルトトイフェル/ワルツ「女学生」

参加費：無料

問合せ先：日本化学会事務局 保倉 光邦

E-mail: hokura@chemistry.or.jp

http://homepage3.nifty.com/upward/orchestra/

懇親会

日時：3月26日(土) 18時～20時
会場：カフェテリア FUJIYA(食堂・購買棟1階)

今回の懇親会では世代を超えて各界各層の懇談の場とするべくより実質的な企画となっております。先生方におかれましては学生の参加費は低く抑えておりますので、ぜひお誘い合わせの上ご参加いただけますと幸いです。

参加費：一般6,000円、学生2,000円

申込方法：年会会場内の総合受付にてお申し込み下さい。

ATP交流会

協賛：SPring-8利用推進協議会

日時：3月24日(木) 17時30分～19時

会場：カフェテリア FUJIYA(食堂・購買棟1階)

ATP交流会では、気軽に立ち寄れる出会いと交流の場を、年会参加者の皆様に提供します。ATPセッションのオーガナイザー、

講師やパネラーも多数参加！産学官の研究者や学生の皆様には、face-to-face交流の願ってもないチャンスです。アルコール、ソフトドリンク、軽食とともに、素敵なプレゼント抽選会などお楽しみも盛り沢山！是非お誘い合わせてATP交流会へ！なお、学生の方は無料です!!!

参加費：学生無料、一般1,000円

申込方法：年会参加者はどなたでも参加できます。事前申込は要りませんので、直接会場へお越し下さい。

問合せ先：日本化学会 企画部 河瀬・白石

電話(03)3292-6163

E-mail: sangaku@chemistry.or.jp

Chem-Station イブニングミキサー

日時：3月26日(土) 18時～20時
会場：京田辺 Cafeteria(食堂・購買棟2階)

学生や博士研究員を中心とする若手研究者や留学生の方に交流の場をChem-Stationより提供いたします。※詳細はWEB(<http://www.chem-station.com>)をご覧ください。

参加費：無料(※飲物は参加者が購入するスタイル)

申込方法：年会参加者はどなたでも参加できます。事前申込は要りませんので、直接会場へお越し下さい。

問合せ先：日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

目指せ未来の科学者 ～小学生向け「実験教室」～

協力：近畿支部化学教育協議会

日時：3月27日(日) 10時～15時50分

会場：京田辺キャンパス 至心館1階 化学系実験室

小学生を対象とした実験教室を開催いたします。

全5回実施：(1)10:00- (2)11:00- (3)13:00- (4)14:00- (5)15:00-
(実施時間は約50分)

※詳細はWEB(<http://www.csj.jp/nenkai/96haru/>)をご覧ください。

参加費：無料

申込方法：事前申込制。専用の申込サイトを公開予定。

問合せ先：日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

なぜナニ化学クイズショー

日時：3月27日(日) 11時15分～15時15分
会場：京田辺キャンパス ローム記念館

小学生を対象としたクイズショーを開催いたします。

全3回実施：(1)11:15-12:00 (2)13:00-13:45 (3)14:30-15:15

※詳細はWEB(<http://www.csj.jp/nenkai/96haru/>)をご覧ください。

参加費：無料

申込方法：事前申込制。専用の申込サイトを公開予定。

問合せ先：日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

市民公開講座 ～自然と科学の調和～

日時：3月26日(土) 13時15分～17時
会場：S7会場(恵道館3階301)

春季年会実行委員会では、一般市民の方々を対象とする恒例の「市民公開講座」を下記の内容で企画いたしました。今回は市民の方々の生活に密接に関連した身近な話題を、専門の先生方にやさしくお話していただきます。どの先生もそれぞれの分野でご活躍の著名な先生方ですので、十分楽しんでいただける半日になると思います。奮ってご参加下さい。

プログラム

- 13:30- 日本の色を染める(染司よしおか・五代目当主)吉岡 幸雄
14:20- サントリーワールドリサーチセンターにおける健康科学研究～新たな価値創造への挑戦～(サントリーウエルネス)紺谷 昌仙
15:20- 大阪ガスの技術開発による天然ガス普及および新規事業の展開(大阪ガス)松本 将英
16:10- 季節でめぐる日本列島の自然(京都造形芸術大学・学長/京大・元総長)尾池 和夫

参加費：無料

申込方法：事前申込不要。当日会場にて受付。

問合せ先：日本化学会 企画部 年会係

電話(03)3292-6163

E-mail: nenkai@chemistry.or.jp

付設展示会

主催：日本化学会

協力：(株)化学工業日報社

後援：一般社団法人日本科学機器協会・一般社団法人日本分析機器工業会・日本薬科機器協会・一般社団法人日本試薬協会

日時：3月24日(木)～26日(土) 10時～17時

会場：デヴィス記念館

参加費：無料

出展社：(2月8日現在)

IOP 英国物理学会出版局、(株)アイシス、朝日分光(株)、アジレント・テクノロジ(株)、アドバンスソフト(株)、American Chemical Society、(株)イーシーフロンティア、Wavefunction, Inc.、HPC システムズ(株)、エルゼビア・ジャパン(株)、大塚電子(株)、沖縄科学技術大学院大学、オプトシリウス(株)、(株)化学工業日報社、一般社団法人化学情報協会、(株)化学同人、(株)カネカ、韓国化学融合試験研究院(KTR)、関東化学(株)、九州大学分子システムデバイス国際リーダー教育センター支援室、(有)桐山製作所、(株)グローブボックス・ジャパン、(株)ケー・エス・エフ・ジャパン、(株)講談社、神戸HPCクラスター/FOCUS、コーニングインターナショナル(株)、コンプレックス(株)、サイバネットシステム(株)、(株)三永電機製作所、三共出版(株)、CEM Japan(株)、JPK Instruments AG、シグマ アルドリッチジャパン合同会社、国立大学法人静岡大学博士キャリア開発支援センター、システム・インストルメンツ(株)、(株)システムハウス・サンライズ、柴田科学(株)、ジャパンハイテック(株)、首都大学東京金の化学研究センター、シュプリンガー・ジャパン(株)、シュレーディンガー(株)、昭光サイエンティフィック(株)、Syrris and Dolomite Microfluidics、(株)シン・コーポレーション、SPRING-8/公益財団法人高輝度光科学研究センター、(株)大興製作所、(株)ダイセル、田中貴金属グループ、(株)デジタルデータマネジメント、Taylor & Francis、Routledge、CRC Press、Garland Science、(株)東京インストルメンツ、(株)東京化学同人、東京化成工業(株)、中村科学器械工業(株)、(株)中村超硬、中山商事(株)、ナカライテック(株)、国立大学法人名古屋大学、公益社団法人日本化学会会員委員会、公益社団法人日本化学会学術情報部、公益社団法人日本技術士会化学部会、日本製紙クレシア(株)、日本電子(株)、日本分光(株)、日本分析工業(株)、ネイチャー・パブリッシング・グループ、(株)パーキンエルマー・ジャパン、バイオタージ・ジャパン(株)、(株)バキューブランドサイエンティフィック ジャパン、浜松ホトニクス(株)、ピー・エー・エス(株)、(株)ピジコムジャパン、ヒドラス化学(株)、兵庫県立大学リーディング大学院、富士シリシア化学(株)、富士通(株)、

兵神装備(株)、丸善(株)卸営業部、丸善出版(株)、マルバーン/スベクトリス(株)、メトラー・トレド(株)、文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム、山善(株)、(株)UNICO、(株)ユニソク、ユラボジャパン(株)、(株)ライトストーン、(株)リガク、(株)リバナ、(株)菱化システム、ロイヤルソサエティー・オブ・ケミストリー、(株)ワイエムシー、ワイリー・ジャパン、和光純薬工業(株)、渡辺化学工業(株)

JST 第6回 「フォーラム：人工光合成」 —人工光合成研究の課題と展望—

主催：科学技術振興機構さきがけ「光エネルギーと物質変換」研究領域、文科省科研費新学術領域研究「人工光合成による太陽光エネルギーの物質変換：実用化に向けての異分野融合」

共催：首都大学東京人工光合成研究センター、東京大学人工光合成プロジェクト、東京工業大学環境エネルギー研究機構、東京理科大学総合研究機構光触媒国際研究センター、立命館グローバルイノベーション研究機構

後援：日本化学連合・日本化学会・光化学協会

日時：3月24日(木) 9時30分～17時30分

会場：SA会場(知真館3号館1階117)

近時、太陽光エネルギーなど自然再生エネルギーの本格利用に向けた研究開発が喫緊の課題となっており、なかでも「人工光合成」研究への社会の関心と期待は近年ますます大きくなっている。平成21年度発足のJST さきがけ「光エネルギーと物質変換」領域では、「人工光合成」を研究課題として精力的に取り組んでいる。当領域では春季年会の会期を利用して国際シンポジウム・成果報告会・フォーラムを毎年開催し、昨年3月の第95春季年会では延べ400名を超える多くの参加者を集め好評を博した。第96春季年会においても、日本化学会会員はもちろん一般市民をも参加可能とする公開の「フォーラム：人工光合成」を下記内容で企画し、「人工光合成」研究の最前線と研究課題の重要性を春季年会参加若手研究者や一般市民に広く情報発信する。

プログラム(講演はパネル討論を除きすべて英語)

09:30- 開会挨拶(科学技術振興機構)

09:45- はじめに：人工光合成研究にかけられる期待にどう応えるか(首都大人工光合成セ)井上 晴夫

第1部：人工光合成研究はどこまで進んでいるか。課題は？

10:05- 生物機能の理解と光捕集機能：生物機能を理解する(岡山大院自然科学)沈 建仁

10:25- 生物機能の理解と光捕集機能：光捕集機能(立命館大院生命科学)民秋 均

10:45- 水の酸化光触媒機能(首都大人工光合成セ)井上 晴夫

11:05- 水素発生光触媒機能(東京理大理)工藤 昭彦

11:25- 二酸化炭素還元光触媒機能(東工大理工)石谷 治

JST さきがけ研究者成果報告

13:00- 褐藻類の光合成アンテナに結合した色素の構造と機能の解明(阪大複合先端研)藤井 律子

13:20- 光合成による高効率エネルギー変換と水の酸化機構の解明(愛媛大プレテオサイエンス研)杉浦 美羽

13:40- かご型分子の内部に展開する光-物質変換機能触媒の創出(阪大院理)船橋 靖博

14:00- 太陽光と新規酸素吸収酸化物を用いた燃料生成(九大稲盛フロンティア研)山崎 仁丈

基調講演

14:45- Mesoscopic Photosystems for Artificial Photosynthesis (Ecole Polytechnique Federale Lausanne Switzerland) Michael Grätzel

15:45-17:30

第2部：パネル討論：新しい科学を生み出すには何が必要か？

パネリスト：相澤 益男(科学技術振興機構)、長野 裕子(文科省研究開発局環境エネルギー課)、沈 建仁(岡山大院自然科学)、阿部 竜(京大院工)、瀬戸山 亨(三菱化学)

司会：井上 晴夫

参加費：無料(講演資料含む)

申込方法：当日会場に直接お越し下さい。

問合せ先：首都大学東京 プロジェクト研究棟302号室

192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 首都大学東京

電話(042)677-2480 FAX(042)677-2180

E-mail: 1026rosi@tmu.ac.jp

Reaxys Prize Club シンポジウム in Japan 2016

主催：エルゼビア・ジャパン株式会社
日時：3月25日(金) 13時30分～17時
会場：S5会場(恵道館2階203)

Reaxys PhD Prizeは、2010年にエルゼビアが設立した若手研究者向けの国際的な賞として、徐々に拡大しており、今日にいたるまで500を超える大学から2,500以上の応募をいただいています。このたびのReaxys Prize Clubシンポジウムでは、基調講演および2015年までのReaxys PhD Prize受賞者とファイナリストからなるReaxys Prize Clubメンバーによる講演を企画しております。多くの皆様からのご参加をお待ちしております。

プログラム

13:30- 開会挨拶 (Elsevier)
13:40- 基調講演
理化学研究所 創発物性科学研究センター
グループディレクター 瀧宮 和男 博士 (工学)
14:00- Reaxys Prize Club メンバーの講演
14:00- (産総研エネルギー・環境領域) マセセ タイタス 氏
15:00- (北大院工) 百合野 大雅 氏
15:20- (東大院理) Parijat Borah 氏
15:40- 著者向けワークショップ (Elsevier) Jan Willem Wijnen
16:40- 閉会挨拶
参加費：無料
申込方法：申し込み不要(学会参加者)、直接会場にお越し下さい。

問合先：エルゼビア・ジャパン株式会社
リサーチソリューションズ マーケティング担当 駒村
106-0044 東京都港区東麻布1-9-15 東麻布1丁目ビル 4階
電話(03)5561-5034 FAX(03)5561-0451
E-mail: jp.pr@elsevier.com
ご案内：エルゼビアブースも出展しております。ブースでは製品紹介デモや書籍の販売を行います。

JST CREST & さきがけ 「超空間制御」合同シンポジウム ～「超空間」を舞台とする 新しい化学～

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構
日時：3月25日(金) 13時30分～16時40分
会場：S6会場(恵道館2階204)

平成25年度文部科学省戦略目標「選択的物質貯蔵・輸送・分離・変換等を実現する物質中の微細な空間空隙構造制御技術による新機能材料の創製」を受け、科学技術振興機構(JST)CREST、さきがけ「超空間制御」研究領域が発足してから2年半が経とうとしています。第95回春季年会では、「超空間」という新しい切り口を広く共有すべく「超空間を舞台とする新しい化学」と題した講演会を行い、多くの方々にお集まりいただきました。今回は、CREST、さきがけにおいて、今まさに研究が進んでいるテーマの中から、イノベーションに繋がる成果の原石、ホットな話題を中心にわかりやすく説明いたします。いずれも挑戦的でキラリと光る課題であり、研究者との活発な議論が展開できればと思います。ご案内申し上げます。

プログラム

13:30- CREST 趣旨説明(三菱化学) 瀬戸山 亨
13:35- 錯体ナノ空間で高分子を制御する(京大) 植村 卓史
14:00- 超イオン伝導パスを拓く階層構造による結晶相界面デザイン～全結晶型リチウムイオン二次電池への挑戦～(信州大) 手嶋 勝弥、梶津 信行
14:25- ナノ多孔性材料のナノ～マクロスケール階層構造の構築による新規分離膜の創製(早大) 松方 正彦
14:55- さきがけ主旨説明(早大) 黒田 一幸

15:00- 柱状環状ホスト分子 Pillar [n] arene を基にした分子レベルで制御された超空間材料の創製(金沢大) 生越 友樹
15:20- 応力で弾性変形する超柔軟性グラフェン系多孔体(東北大) 西原 洋知
15:40- メン結晶超空間を利用した高効率光エネルギー変換系の構築(神戸大) 立川 貴士
16:00- レドックス型多孔性イオン結晶によるセシウムイオンの高選択的吸着(東大) 内田 さやか
16:20- 発光色と発光寿命の自在制御を可能とする有機結晶空間内ホスト-ゲストケミストリー(九大) 小野 利和
参加費：無料(定員100名)
研究領域 URL：
http://www.jst.go.jp/kisoken/presto/research_area/ongoing/1112062.html
http://www.jst.go.jp/kisoken/crest/research_area/ongoing/bunyah25-3.html
問合先：国立研究開発法人科学技術振興機構 戦略研究推進部「超空間制御」研究領域 酒部・武内
102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町
電話(03)6261-0636 FAX(03)3222-2063
E-mail: kenichi.sakabe@jst.go.jp

未来を創る有機分子触媒

主催：研究開発専門委員会「有機分子触媒による高度分子変換技術」
共催：日本化学会
共催：新学術領域研究・総括班「有機分子触媒による未来型分子変換」
日時：3月26日(土) 13時30分～16時30分
会場：S8会場(恵道館3階302)

近年、金属錯体触媒、生体触媒(酵素)に次ぐ、第3の触媒として大きな注目を集めている「有機分子触媒」に焦点を当て、その設計開発から有用物質の合成などの応用展開までわたる最先端研究の動向を紹介する。有機分子触媒は金属を使わず、入手が容易で実験操作が簡便、かつ、特殊な実験設備や技術が不要などの観点から産業界からの関心が高まっている。本企画は有機分子触媒の最先端研究の紹介にとどまらず、産官学の間で情報交換を行う絶好の機会を提供することにもつながり、有機分子触媒による「モノづくり」を視野に入れた新たな局面へと展開するに当たって、課題とその克服方法について産官学で意見交換することを目的とする。なお、講師陣としては最先端研究の推進に貢献している若手研究者を中心に選定した。

プログラム

13:30- 趣旨説明(東北大院理) 寺田 眞浩
(座長：寺田 眞浩 東北大院理)
13:40- 基本反応活性種の触媒的制御を目指して(名大ITbM, CREST-JST) 大井 貴史
14:10- π 共役系分子を活用する遷移金属フリーなレドックス反応システムの開発(阪大院工) 雨夜 徹
14:30- 有機分子触媒による官能基集積型アルケンの新合成法(北大院理) 大宮 寛久
(座長：林 雄二郎 東北大院理)
15:00- α -フルオロシクロペンテンの位置選択的合成：有機触媒によるジフルオロカルベン生成とフッ素により制御されるナザロフ環化(筑波大院数理) 潤辺 耕平
15:20- 有機触媒の穏和な活性化を利用した不斉合成(京大院工) 浅野 圭佑
15:40- ホスファゼン塩基触媒による[1,2]-phospha-Brook 転位を利用した炭素-炭素結合生成反応(東北大院理) 近藤 梓
16:00- 有機触媒による生体分子修飾と機能制御(東大院薬, ER-ATO-JST) 金井 求
16:30- 閉会(東北大院理) 寺田 眞浩
参加費：無料
申込方法：直接会場にお越し下さい。
問合先：東北大学 大学院理学研究科 寺田 眞浩
980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
電話(022)795-6584
E-mail: mterada@m.tohoku.ac.jp

天然物および生物有機化学 に関する 中西シンポジウム 2016

主催：中西シンポジウム実行委員会
日時：3月24日(木) 13時30分～17時30分
会場：S7会場(恵道館3階301)

中西シンポジウムは、日本化学会と米国化学会との取決めにより偶数年度は日本で、奇数年度は米国にて選考されるナカニシ・プライズの受賞講演を含み、該当国で交互に開催されている。本プライズは生物活性天然物の単離、構造解析、生物機能、生合成および全合成分野での顕著な研究業績を対象に選考され、本年度は本化学会に設置された選考委員会によって、楠本正一教授(阪大名譽教授・山田科学振興財団理事長)に授与されることに決定した。よって本企画は選考理由である「有機化学を基盤とした複合糖質の合成と生物機能に関する研究」に基づき、受賞者による講演に加えてこれに関連する最新の研究成果を周辺分野の研究者に紹介していただく。

プログラム

- 13:30-14:00 ナカニシ・プライズ授賞式
(座長：村田 道雄 阪大)
Nakanishi Prize 2016 Awardee：楠本 正一(阪大名譽教授)
- 14:00-17:00 中西シンポジウム
(座長：上田 実 東北大)
- 14:00- “Microbial Immunomodulatory Glycoconjugates; Syntheses and Biological Functions” 藤本 ゆかり(慶應大)
- 14:30- “Nucleic Acid Sensing by Toll-like Receptors” 三宅 健介(東大医科研)
(座長：鈴木 啓介 東工大)
- 15:00- “Identification of a Novel Glycolipid Essential for Membrane Protein Integration” 島本 啓子(サントリー生命科学財団)
- 15:30- “Quest for Synthetic Chemistry’s Initiative in Glycobiology” 伊藤 幸成(理研)
- 16:00-16:10 休憩
(座長：村田 道雄 阪大)
- 16:10-17:10 受賞記念講演 楠本 正一(阪大名譽教授)
参加費：無料/聴講可能
申込方法：事前申込不要、当日会場にて受付いたします。
問合せ先：日本化学会 企画部 稲田 恵美子
101-8307 千代田区神田駿河台1-5
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: inada@chemistry.or.jp

ケミカルレコード・レクチャー The Chemical Record Lecture 2016

主催：日本化学会・Wiley-VCH
日時：3月25日(金) 11時～11時50分
会場：S1会場(恵道館1階104)

日本の化学関係8学協会の雑誌として刊行した総合論文誌“The Chemical Record”は、2011年より日本化学会の雑誌としてリニューアルしました。Wiley-VCHとの本格的な提携によりインパクト・ファクターも着実に向上しております。山本尚編集委員長による編集体制の下、本年も年会時にTCR Lectureを開催いたしますので、多くの皆様のご参加をお願いいたします。

プログラム

- タイトル New Photoredox Reactions
Professor David W. C. MacMillan (Princeton Univ.)
Chair: Professor Hisashi Yamamoto (Chubu Univ.)
参加費：無料(年会登録者に限る)
申込方法：事前申込み不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ先：日本化学会 学術情報部 TCR 係
電話(03)3292-6165
E-mail: tcr@chemistry.or.jp

英語力を磨け —魅力的なプレゼンテーション、 アブストラクトのために—

主催：日本化学会
協賛：(株)化学同人、(株)東京化学同人、丸善出版(株)
日時：3月25日(金) 13時30分～15時30分
会場：S4会場(恵道館2階202)

サイエンスがグローバル化している現在において、自分の研究の素晴らしさを理解してもらうためには英語が必須である。伝えたいことを正確に伝える、尋ねたいことを正確に尋ねる。その基本的なことができる英語力を身に付けなければ自分の研究を理解してもらうことはできない。本企画はネイティブスピーカーの講師をお招きし、英語でのプレゼンテーションとアブストラクト作成のスキルアップについて講義をいただく。

プログラム

- 13:30-14:30 “English Scientific Communication” (東京大学) Jonathan R. Woodward
- 14:30-15:30 “The English Language Abstract: The Essential Step for Globalizing Your Research” (東京大学) William H. Coaldrake
参加費：無料
申込方法：直接会場にお越し下さい。
問合せ先：日本化学会 企画部 中村 史夫
電話(03)3292-6163 FAX(03)3292-6318
E-mail: nakamura@chemistry.or.jp

CSJ ジャーナルフォーラム 「化学会ジャーナルを活用しよう」

主催：日本化学会
協力：トムソン・ロイター
日時：3月25日(金) 15時30分～17時
会場：S8会場(恵道館3階302)

海外でも多数の学術ジャーナルが刊行され、論文のオープンアクセス化も急速に進んでいる背景の中、日本化学会が刊行するジャーナル2誌(BCSJ, CL)は、2013年より科研費の補助を受け、国際的なビジビリティの向上に向け様々な取り組みを行っている。本フォーラムでは、前半でこれまでの化学会の取り組みを共有し、CSJジャーナルのあり方を理解いただきたい。後半では、優れた研究成果を世界に発信していく上でいかにジャーナルを活用すべきかに関して Know-how も含めて議論を進める予定である。

日ごろからジャーナルを活用されている研究者、および投稿を考えている学生の皆さんに是非参加いただきたい。

プログラム

- 15:30- 「日本化学会の2誌(BCSJ, CL)の取り組み」
全体概要：(ジャーナル戦略委員長) 玉尾 皓平
BCSJの取り組み：(BCSJ編集委員長) 時任 宣博
CLの取り組み：(CL編集委員長) 塩谷 光彦
- 16:00- 効果的な研究情報発信とCSJ Journalの活用(仮題)(トムソン・ロイター) 波多野 薫
- 16:15- ハイインパクト論文書き方のコツ(仮題)(物材機構) 有賀 克彦
- 16:30- フリーディスカッション、Q&A(ジャーナル活用のTips等)
- 参加費：無料
申込方法：事前申し込み不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ先：日本化学会 学術情報部 鈴木 慎一
電話(03)3292-6165
E-mail: s-suzuki@chemistry.or.jp

男女が共に働く豊かな多様性社会 ～あなたのキャリアパスを考える～ (男女共同参画シンポジウム)

主催：男女共同参画推進委員会
協賛：男女共同参画学協会連絡会
日時：3月25日(金) 15時～17時15分
会場：S1 会場 (恵道館1階104)

男女共同参画推進委員会では、毎年男女共同参画シンポジウムを開催し、女性研究者ならびに技術者の活躍増進および女子男子学生の進路選択や将来の活躍の支援を目指して、様々な共同参画支援制度やロールモデルの紹介、さらには男女共同参画の現状や課題についての議論を行っている。今回は、先行している米国の例の紹介を含め、長期的視点かつ広い視野からキャリアパスを考えるヒントを提供したい。

プログラム

- 15:00- 趣旨説明・開会挨拶
15:10- 第4回女性化学者奨励賞受賞者の紹介 (茶谷直人副会長)
15:20- 基調講演 “The Nelson Diversity Surveys: Data-driven approaches to identify and remove barriers for women in academia” Donna Nelson 氏 (ACS President)
15:55- 招待講演 “Gendered Innovation (仮)” Hee Young Paik 氏 (Seoul National Univ., Professor)
16:20- 招待講演 “自分にあった生き方を探そう” 川合 真紀 氏 (東大, 教授)
16:45- パネルディスカッション
奨励賞受賞者2名の自己紹介 [鳴瀧 彩絵氏 (名大), 松島 綾美氏 (九大)] の自己紹介・基調講演・招待講演者3名への質問など
17:10- 閉会挨拶
17:30- 交流会 (無料 (学生歓迎)) 社会人からの情報提供・アドバイス

参加費：無料

申込方法：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。

問合せ先：日本化学会 企画部 瀬田 博

電話 (03) 3292-6163

E-mail: danjo@chemistry.or.jp

日米国際交流シンポジウム —ACS 会長 Donna Nelson 氏に 敬意を表しての ナノカーボンミニシンポジウム—

主催：公益社団法人日本化学会
共催：アメリカ化学会
日時：3月26日(土) 9時～11時45分
会場：S4 会場 (恵道館2階202)

ナノテクノロジーは現在最も活発な研究分野の1つであり、その研究範囲も広く、様々な新素材やデバイスが生じることが期待されている。今回のシンポジウムでは single-walled carbon nanotube を研究テーマの1つとされている 2016 年アメリカ化学会会長の Donna Nelson 氏をお招きして、ナノカーボンを研究する日米両国からの第一線研究者数名にご講演をいただいで、本分野における現在および将来の展望や課題について討論したい。

プログラム

- 9:00- Opening Remark 山本 尚 (日本化学会次期会長, 中部大)
9:05- “Science of Finite Carbon Nanotube Molecules” 磯部 寛之 (東北大院理)
9:25- “Carbon Nanotube-Nanowires” 篠原 久典 (名古屋大院理)
9:45- “Design and Creation of Carbon Nanotube-based Next-Generation Nanomaterials” 中嶋 直敏 (九州大院工)
10:05- “Dihalopolyynes: Building Carbon Materials from the Bottom Up” Prof. Nancy Goroff (Stony Brook Univ. USA)
10:25-10:40 Break

- 10:40- “Single-molecule Nanotubes, Graphene Nanoribbons, and a New Form of Carbon” 伊丹 健一郎 (名古屋大)
11:00- “Chemistry at Nano and Mesoscopic Interfaces” 中村 栄一 (東大院理)
11:20- “Functionalization and Characterization of Single-Walled Carbon Nanotubes by using NMR” Prof. Donna J. Nelson (ACS President, Univ. of Oklahoma, USA)
11:40- Closing Remarks 庭山 聡美 (Organizer, 室蘭工大工), Prof. Donna J. Nelson (ACS President, Univ. of Oklahoma, USA)
参加費：無料/聴講可能
申込方法：事前申込不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ先：日本化学会 企画部 稲田 恵美子
電話 (03) 3292-6163 FAX (03) 3292-6318
E-mail: inada@chemistry.or.jp

論説フォーラム 徹底討論！これからの人材育成

主催：日本化学会論説委員会
日時：3月26日(土) 10時～12時30分
会場：S1 会場 (恵道館1階104)

2005年から化工誌に「論説」が創設されて以来、これまで140篇余に及ぶ論説で「人材育成」「科学思想」「政策提言」「化学産業競争力」「大学・研究機関の体制」「科学と社会」などのテーマを取り上げてきました。これらの論点は突きつめれば「人材育成」に集約されるといっても過言ではないでしょう。そこで、論説委員およびゲストライターの方々からそれぞれの主張を5分間でご披露いただき、会員の皆さん方と十分な時間ととって、「これからの人材育成」について徹底討論する場を設定しました。多数のご来場とご意見を歓迎いたします。

プログラム

- 趣旨説明：玉尾 皓平 (理研：論説委員長) 10:00～10:10
(山野井論説「産業界から大学(院)教育への要望と期待」から10年を経て)
総合司会：辻 篤子 (朝日新聞：論説委員)
コメンテーター：村井 眞二 (奈良先端大：論説委員会名誉顧問)
1. 若者たちへ 10:10～10:40
「化学を目指す若者を育てるために」山本 尚 (中部大：論説委員会アドバイザー)
「科学技術を支える化学—若い世代が実感できる機会を」上野 京子 (化学情報協会：論説委員)
2. 大学人へ、研究者へ 10:40～11:10
「大学人は国家のあり方から大学を論じる言葉を作り出せ」上山 隆大 (政策研究大学院大)
「CUDOS と PLACE：現代研究者の立ち位置」菅 裕明 (東大：論説委員)
3. 企業人へ 11:10～11:40
「人の力を生かす環境をつくるには」辻 篤子 (朝日新聞：論説委員)
「企業研究者・技術者は如何にして成長するのか」小豆畑 茂 (日立製作所：論説委員)
4. 全体討論：官・学から、産業界から 11:40～12:30
「人材育成：大学現場での取り組みと課題」渡辺 芳人 (名大)
「大学院教育の在り方：産業界から教育現場への提言」浦田 尚男 (三菱ケミカルホールディングス：論説委員)
参加費：無料
申込方法：当日会場にて受付
問合せ先：日本化学会 学術情報部 田中 陽子
電話 (03) 3292-6165
E-mail: ronsetsu@chemistry.or.jp

第10回化学遺産市民公開講座

主催：日本化学会化学遺産委員会・化学史学会
共催：日本化学工業協会 (予定)
日時：3月26日(土) 9時30分～12時30分
会場：S5 会場 (恵道館2階203)

化学遺産委員会では、平成21年度から化学関連の学術あるいは化学技術遺産の中で特に歴史的に高い価値を有する貴重な史料を

認定する『化学遺産認定制度』を開始しこれまでの6回で33件をそれぞれ認定・顕彰した。平成27年度も前年度同様に化学遺産認定候補を一般市民・会員諸氏より公募するとともに、委員会でも認定候補として相応しいものを選定し、対象候補16件の調査・検証作業を行った。今回の市民公開講座では、本年度第7回化学遺産として認定予定の具体的内容を紹介する。

プログラム

- 09:30- 開会あいさつ(化学遺産委員会委員長、京大名誉) 植村 榮
09:40- 野副鐵男の化学遺産—非ベンゼン系芳香族化合物資料と化学者サイン帳(三島学園理事長) 浅尾 豊信
10:15- 高圧法ポリエチレン技術—第2次大戦中の日本での研究・工業化は生きたのか—(日本化学会フェロー) 田島 慶三
10:50- 日本化学会初代会長久原躬弦と津山(津山洋学資料館) 下山 純正
11:25- Dr. ワグネルの一生と美しい「旭焼」(東工大博物館) 道家 達将
12:00- 日本の写真化学の始祖・上野彦馬—幕末明治を撮った写真師(日大芸) 高橋 則英
参加費: 無料。講演会資料代(予価)1,000円(当日徴収)。
申込方法: 日本化学会化学遺産のページよりお申し込み下さい。当日参加もできます。
問合せ先: 日本化学会 企画部 美園 康宏
電話(03)3292-6163
E-mail: misono@chemistry.or.jp

化学教育における アクティブラーニング

主催: 日本化学会教育・普及部門
日時: 3月26日(土) 13時30分~17時
会場: S5会場(恵道館2階203)

最近、「アクティブラーニング」という語をよく耳にするようになった。高等教育機関での教育の改善方法として、しばしばこの語は使われるが、2012年8月の中央教育審議会の答申で、次期学習指導要領の改訂の1つのキーワード取り上げられてから、初等中等教育においても、しばしば登場するようになった。この語の意味するところは、一方的な講義形式の授業ではなく、学習者が主体的、協動的に学ぶこと、具体的には、「課題解決学習」、「体験学習」、「グループディスカッション」、「グループワーク」などを指すようだ。だとすれば、初等中等教育においては、すでにかなり以前から行われているのではないかと、という声も聞かれる。今回のフォーラムでは、この語の意味するところ、また敢えて今、取り上げられるようになった経緯について共通理解を図るとともに、理科の教科書ではアクティブラーニングをどのように取り入れ、どのような対応が考えられているのか(いくのか)、またこのような取り組みをすでに積極的に進めている実践者から報告してもらい、中等教育から高等教育までも含めて、教育現場での今後の可能性と方向性を探っていきたい。

プログラム

- (13:30-13:45)
1. 開会の挨拶(教育・普及部門部長) 小坂田 耕太郎
2. 趣旨説明(化学教育フォーラム企画小委員会委員長) 荘司 隆一
(13:45-15:45)
3. 次期学習指導要領におけるアクティブラーニングの紹介(文部科学省教科調査官) 野内 頼一
4. アクティブラーニング用教材について(新興出版社啓林館) 八木 圭一
5. 現場での実践例 1(高校・PIE)(駒場東邦中学校高等学校教諭) 柳澤 秀樹
6. 現場での実践例 2(大学)(金沢大学教育開発・支援センター准教授) 杉森 公一
(16:05-17:00)
7. パネルディスカッション
司会(化学教育フォーラム企画小委員会委員) 守橋 健二、鮫島 朋美
8. 閉会の挨拶(普及・交流委員会委員長) 齊藤 幸一
参加費: 無料
申込方法: 申込不要。直接会場にお越し下さい。
問合せ先: 日本化学会 企画部 大倉
電話(03)3292-6164
E-mail: ohkura@chemistry.or.jp

企業はどのような人財を 求めているか (博士進学に悩むあなたの相談を 受け付けます)

主催: 産学交流委員会人材交流小委員会
日時: 3月26日(土) 14時~17時40分
会場: S1会場(恵道館1階104)

科学技術で生き残りを図る日本においては、科学技術を推進する原動力、イノベーションの担い手として、アカデミアのみならず産業界においても高度な知識と研究開発力を持った人財が変革の時代を迎える今こそ必要です。本企画では、企業の研究者、研究管理者とともにあなたのキャリアパスについて考えて見たいと思います。そのために、簡単なプレゼンテーションの後に、グループディスカッションを行い、具体的な悩み、疑問について議論する形式を考えました。グループのテーマとしては、次のテーマを設定しています。

①「企業で活躍するのに博士は有利か」(対象B4, M1)

②「博士課程で何を学ぶか」(対象M2, D)

参加希望の方は、事前申込制です。受付フォームより、参加希望のテーマ、時間帯を選択下さい。また、さらに議論したい新たなテーマがあればお申し込みの際にお知らせ下さい。なお対象学年は目安であり、それ以外の方のご参加も歓迎いたします。

プログラム

- 14:00-14:20 話題提供: 「変革の時代に活躍する人財とは」(東レ) 長瀬 公一
14:20-15:40 グループディスカッション*
①テーマ: 企業で活躍するのに博士は有利か(対象学年: B4, M1)
ディスカッションメンバー: 志村晴季(東レ・研究員)・池田大次(ダイセル)・池田 博榮(九大・コーディネーター)・山下 健(味の素・研究員)・大石 茂樹(ブリヂストン)・浅見 真年(横国大・教授)
②テーマ: 博士課程で何を学ぶか?(対象学年: M2, D)。
ディスカッションメンバー: 長瀬 公一(東レ・担当部長)・岩堀恒一郎(ニコン・課長)・吉田 耕治(阪大・コーディネーター)・山田 尚之(味の素, グループ長)・矢作 和行(花王, 主席研究員)・中村 暢文(農工大・教授)
15:40-16:00 休憩
16:00-16:20 話題提供: 「変革の時代に活躍する人財とは」(東レ) 長瀬 公一
16:20-17:40 グループディスカッション(内容は前半のものと同様)
17:40- 閉会挨拶(農工大) 中村 暢文
*…各回ともに複数グループ(企業委員等2, 3名+学生10名程度)で議論します。
参加費: 無料(年会登録者に限る)
申込方法: 事前申込制。下記よりお申し込み下さい。
<https://event.csj.jp/form/view.php?id=124817>
問合せ先: 日本化学会 企画部 河瀬
電話(03)3292-6163
E-mail: sangaku@chemistry.or.jp

配位アシンメトリー: 非対称分子設計と異方集積化 に基づく新物質科学

主催: 日本化学会学術研究活性化委員会
日時: 3月26日(土) 13時30分~16時30分
会場: S4会場(恵道館2階202)

本企画では、金属元素を立体制御、反応場、物性発現のプラットフォームと捉え、分子、集合体、空間、電子系の非対称性・キラリティーを基盤とした物質創成に焦点を当てる。このようなアプローチは、より高い異方性や指向性を有する新機能創出につながると考えられる。錯体化学、高分子・界面化学、理論化学、超分子化学、材料化学、物理化学の分野の研究者の独自の視点から、「配位アシンメトリー」の重要性を議論していただく。なお、ここ

では「配位アシンメトリー」を、広い意味でのプロキラルな金属錯体およびキラルな金属錯体、およびそれらの異方集積体を対象とする物質科学、と定義する。

プログラム

- 13:30- 趣旨説明 (東大) 塩谷 光彦
- 13:40- 究極のらせん高分子の創成を目指して (名大) 八島 栄次
- 14:10- 非対称金属配位場を有する超分子系に関する理論研究 (分子研) 江原 正博
- 14:35- 配位キラリティーの動的変換 (金沢大) 秋根 茂久
- 15:10- アシンメトリック多孔性構造の合理的構築と機能創出 (九大) 大場 正昭

15:35- アシンメトリック配位化学による巨大クラスター構造と機能の創出 (兵庫県立大) 阿部 正明

16:00- らせん藻類のバイオテンプレート技術: THz 帯光学活性とキラル機能 (東工大) 彌田 智一

参加費: 無料 (希望者には調査報告書を 1,000 円で配布)

申込方法: 当日直接会場にお越し下さい。

問合せ先: 日本化学会 企画部 美園 康宏

電話 (03) 3292-6163

E-mail: misono@chemistry.or.jp